

令和4年度子どもの貧困対策に係る実態調査
調査結果について

令和5年3月17日

京都府教育委員会

目 次

P. 1・2	令和4年度 子どもの貧困対策に係る実態調査の実施について
P. 3	令和4年度 子どもの貧困対策に係る実態調査 調査結果について
	1 全国学力・学習状況調査（学力テスト）の状況
P. 4～7	2 質問紙調査の回答状況
	（1）貧困世帯と府全体の回答状況の比較
P. 8～10	（2）学力A層とD層の回答状況の比較
P. 11	3 健康診断調査の状況
	（1）肥満傾向児の割合
	（2）う歯（むし歯）がある児童生徒の割合（処置の状況別）
P. 12	4 中学校3年生の進路状況
	（1）高等学校等への進学率の年次推移
	（2）課程別進学率の年次推移
P. 13～19	大阪公立大学大学院 五石 敬路 准教授による分析

令和4年度 子どもの貧困対策に係る実態調査の実施について

1 調査対象

要保護・準要保護・ひとり親家庭の児童生徒（小学6年生、中学3年生）

2 調査校

府内公立小中学校から抽出した小中各20校で実施（計40校）

3 調査項目

調査項目		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
全国学力・学習状況調査(小学6年・中学3年) (※1)	学力問題 正答数 (国、算・数)	○	○ 理を含む	○ 英を含む	/	○
	子どもの 生活状況	○	○	○		○
健康診断調査 (※2)	体格(身長・体重) う歯(有無、処置状況)	○	○	○	○	○
中学校卒業生徒の進路状況 (※3)		○	○	○	○	○ 令和4年3月卒業

▶ (※1)については、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果、(※2)については、令和3年度小学6年生及び中学3年生の健康診断調査測定値を本調査の対象とする。

▶ (※3)については、要保護・準要保護家庭の生徒を対象としては悉皆調査を実施済みであり、抽出校調査ではひとり親家庭の生徒のみを対象に実施する。

4 子どもの生活状況調査項目

(令和3年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙より)

1 生活習慣について
◇ 朝食を毎日食べている。 ◇ 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 ◇ 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
2 自尊心・将来の展望について
◇ 自分には、よいところがあると思う。 ◇ 将来の夢や希望を持っている。
3 非認知能力（自己管理能力・粘り強さ）について
◇ 自分で計画を立てて勉強をしている。 ◇ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。
4 家庭環境・学習時間について
◇ 家には、およそどれくらいの本があるか。（※4） ◇ 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか。
5 地域や社会等への関心について
◇ 今住んでいる地域の行事に参加している。 ◇ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
6 新型コロナウイルスによる臨時休業について
令和2年の4～5月頃（多くの学校が臨時休業していた時期）について ◇ 勉強について不安を感じた。（※4） ◇ 計画的に学習を続けることができた。（※4） ◇ 規則正しい生活を送っていた。（※4）

(14項目)

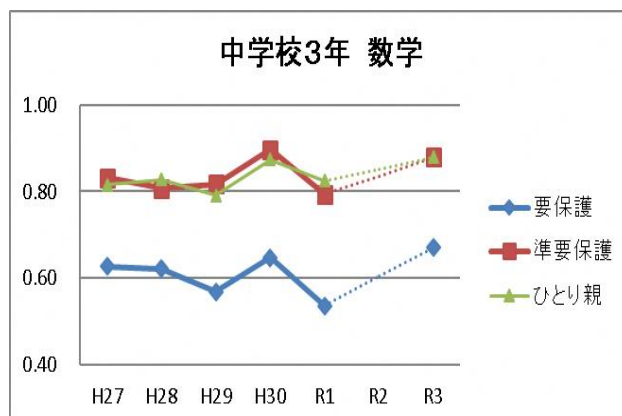
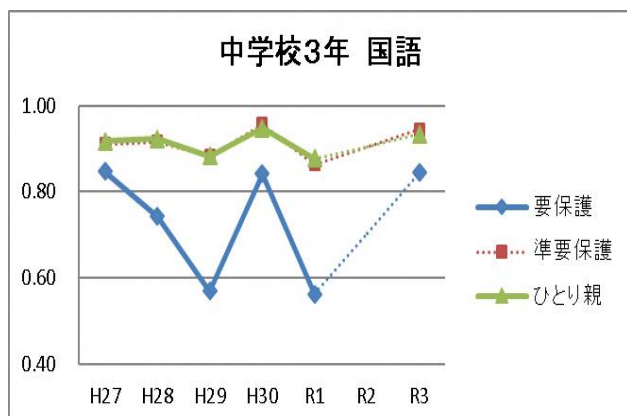
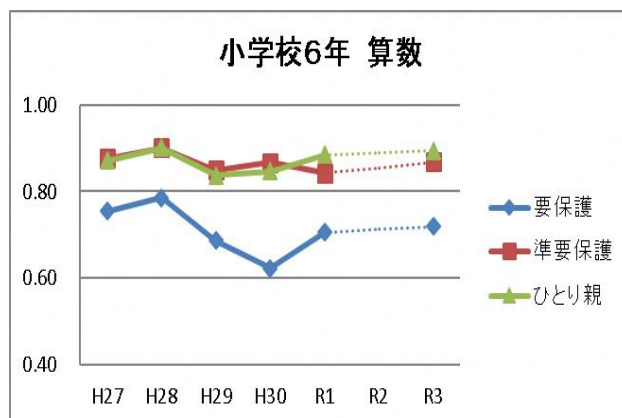
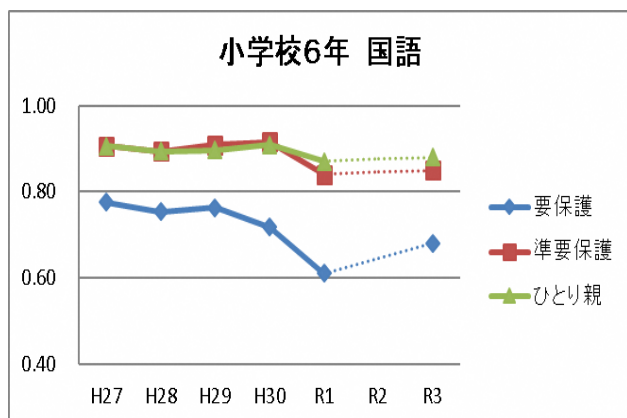
▶ (※4)については、令和3年度全国・学力学習状況調査の質問紙における、質問項目の変更に伴い、一昨年度の本調査から4項目変更した。

令和4年度 子どもの貧困対策に係る実態調査 調査結果について

※ 小中各 20 校を抽出し、前年度の小 6 及び中 3 を対象とした調査。

平成 26 年度から令和元年度の調査は同一の抽出校で実施。令和 2 年度の調査から、抽出校を変更している。

1 全国学力・学習状況調査（学力テスト）の状況 （府全体の平均正答数を 1 とした指数による比較の年次推移）



令和 2 年度全国学力・学習状況調査は中止

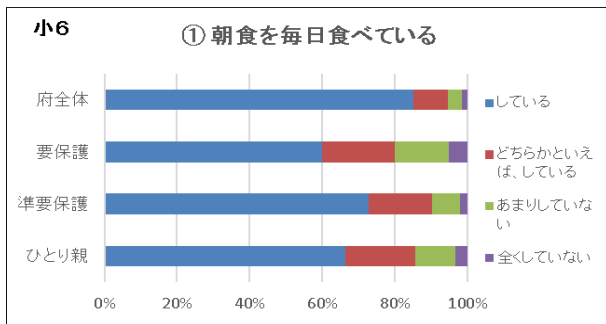
※ 全国学力・学習状況調査における、教科に関する調査について、以前は、「国語 A・B」「算数（数学） A・B」が実施されていたが、平成 31（令和元）年度は、A・Bの区別がなくなり、「国語」「算数（数学）」が実施された。そのため、上記グラフの平成 27～30 年度の指数は、平均正答数 を基に算出した。

「要保護」「準要保護」「ひとり親」の児童生徒の正答数は、どの校種、教科とも「府全体」より低い状況である。「府全体」との差に注目すると、「要保護」が「準要保護」及び「ひとり親」より大きい状況で、依然として家庭の経済状況は子どもの学力に大きく影響している。

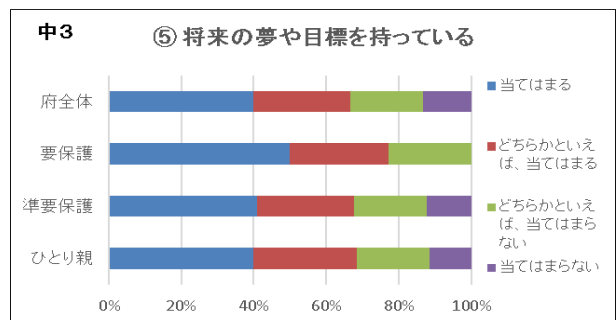
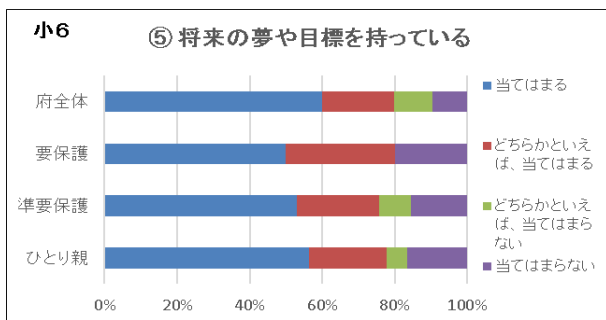
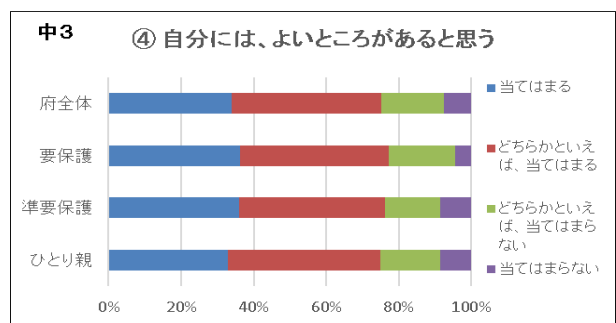
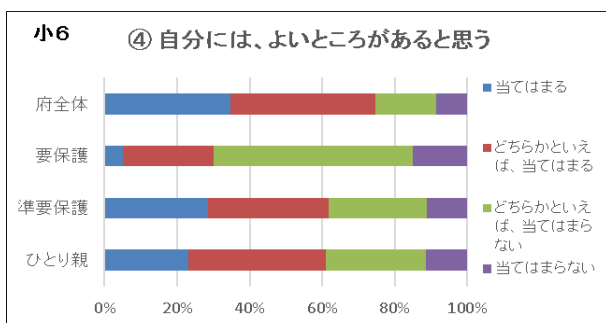
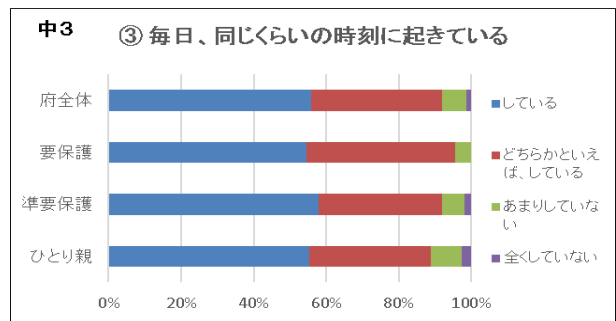
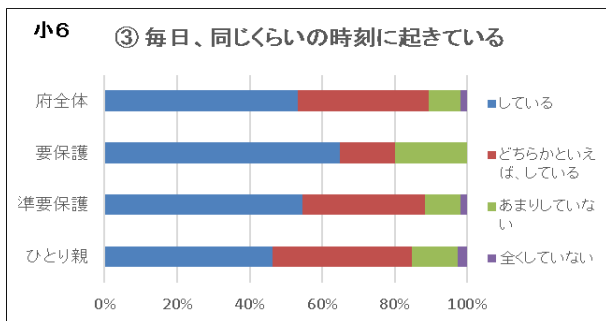
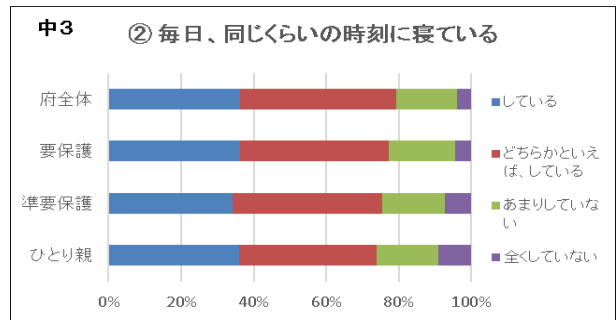
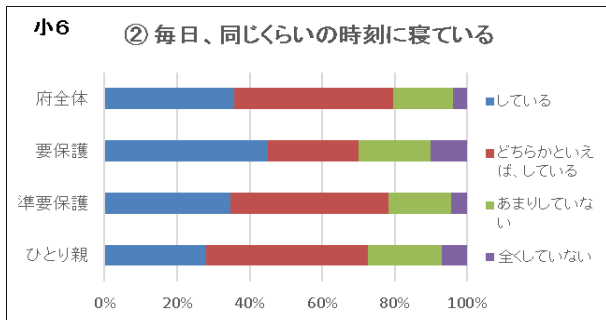
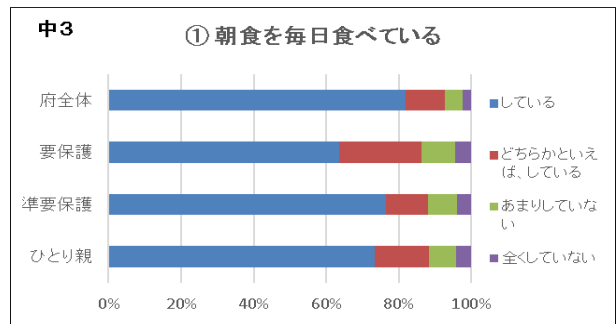
2 質問紙調査の回答状況 令和3年度の小学6年生・中学3年生

(1) 貧困世帯と府全体の回答状況の比較

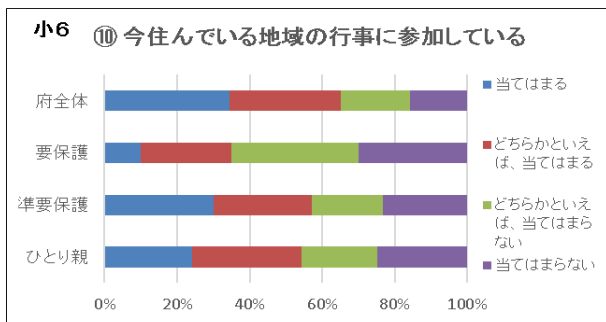
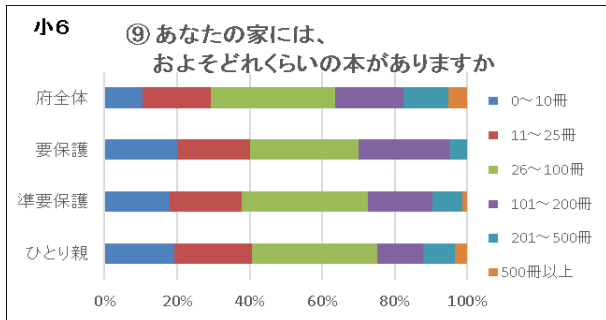
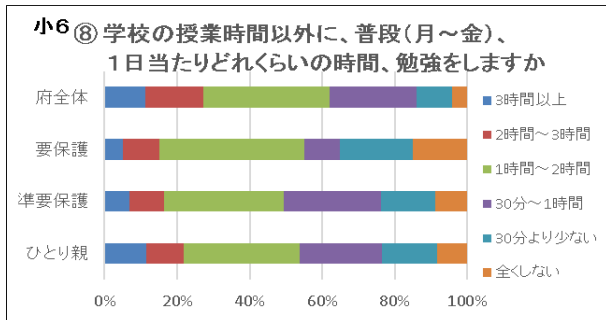
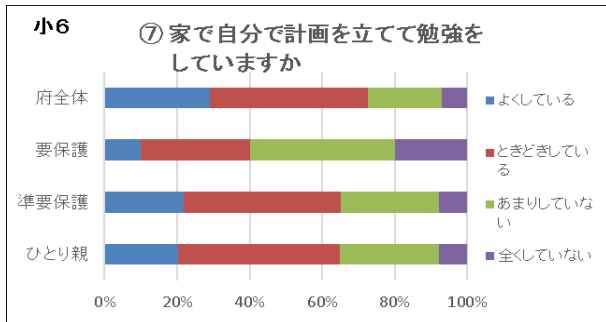
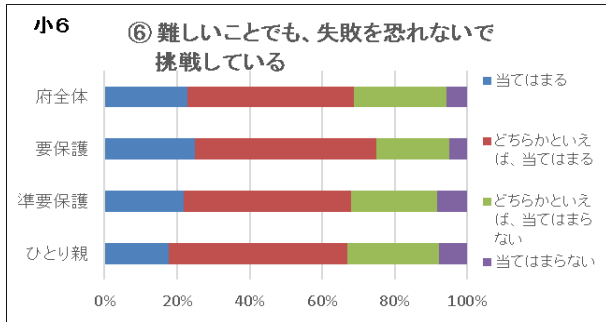
小学校6年



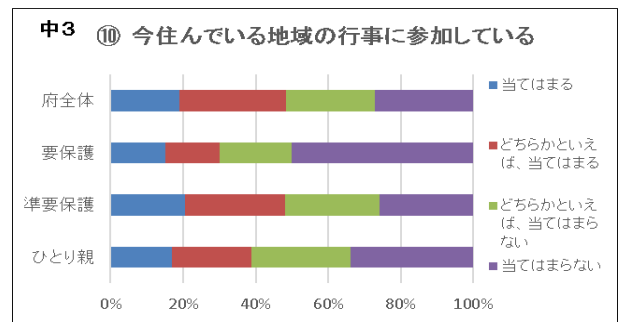
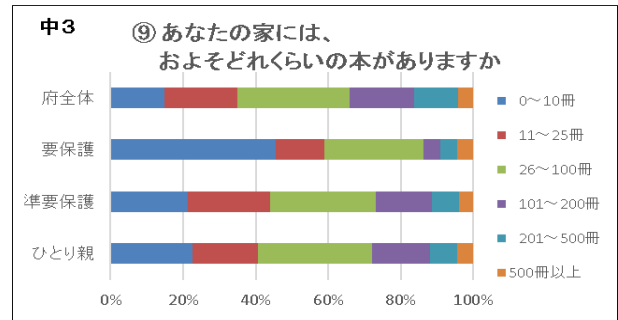
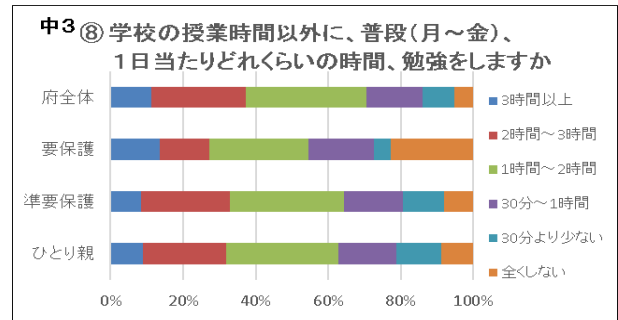
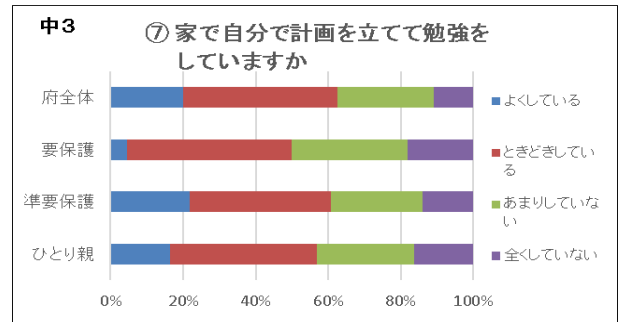
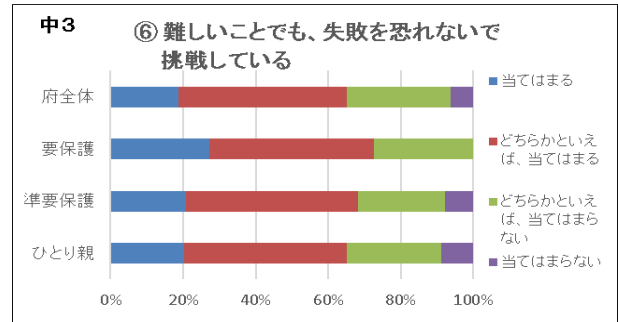
中学校3年



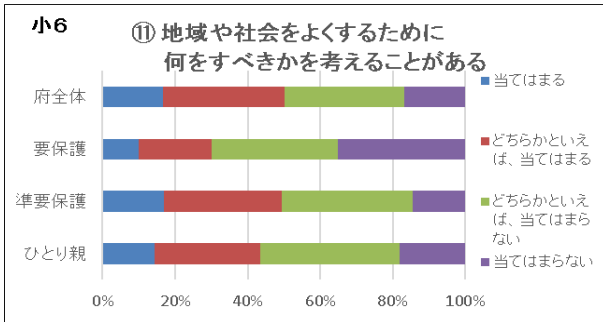
小学校6年



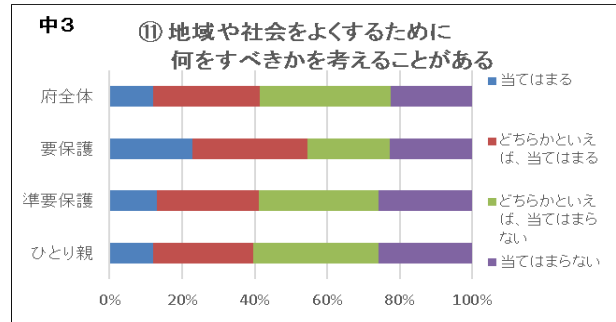
中学校3年



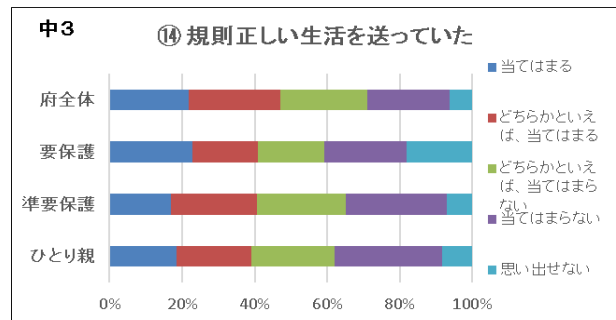
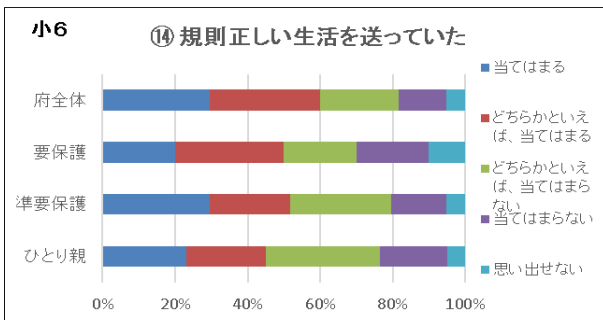
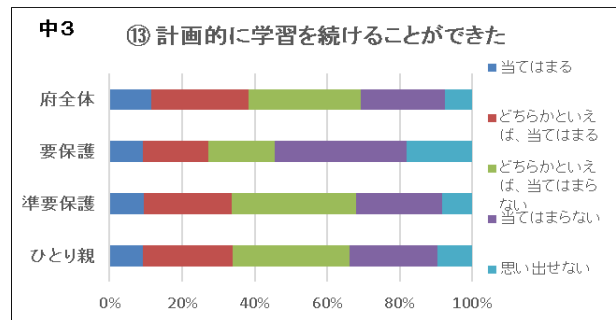
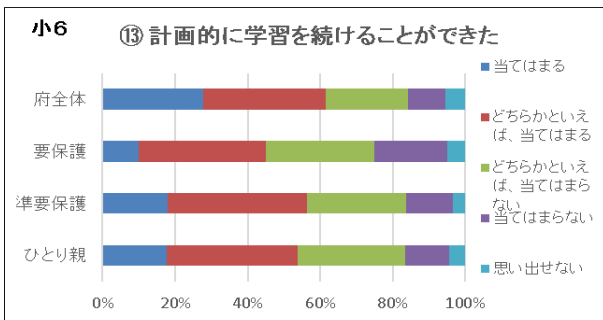
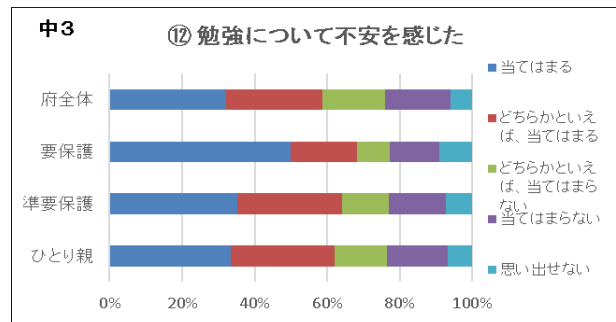
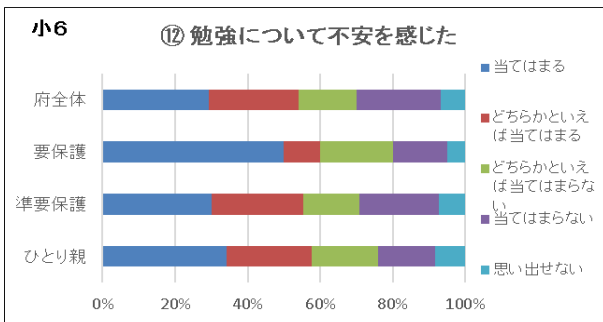
小学校 6年



中学校 3年



令和2年の4～5月頃（多くの学校が臨時休業していた時期）について



「府全体」と、「要保護」「準要保護」「ひとり親」の肯定的な回答（グラフの青い部分と赤い部分の合計。ただし、『あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。』を除く。）を比較すると、「要保護」に大きな相違が見られる項目が多い。

生活規律に関する『朝食を毎日食べている。』『毎日、同じくらいの時刻に寝ている。』『毎日、同じくらいの時刻に起きている。』について、特に小6において、「要保護」が「府全体」を下回っている傾向がある。

勉強量に関する『家で自分で計画を立てて勉強していますか。』『学校の授業以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。』について、「要保護」が「府全体」を下回っている傾向がある。

そのためか、令和2年の4～5月頃（多くの学校が臨時休業していた時期）について、『計画的に学習を続けることができた。』『規則正しい生活を送っていた。』についても、「要保護」が「府全体」を下回っている。

また、『今住んでいる地域の行事に参加している。』について、「要保護」が「府全体」を下回っている。『あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。』について、0～10冊と回答している割合が、「要保護」は「府全体」よりも高い。

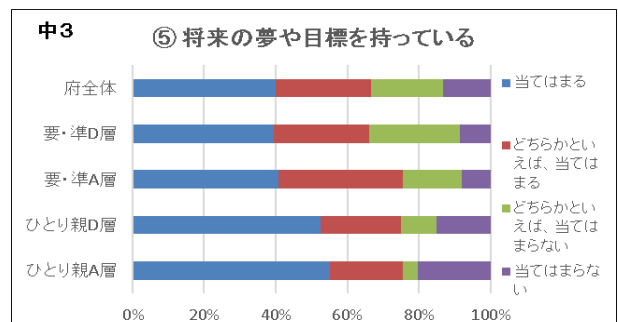
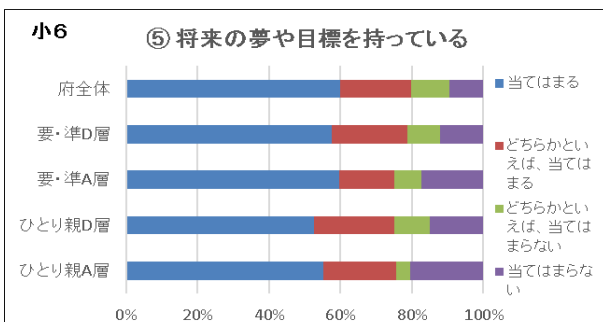
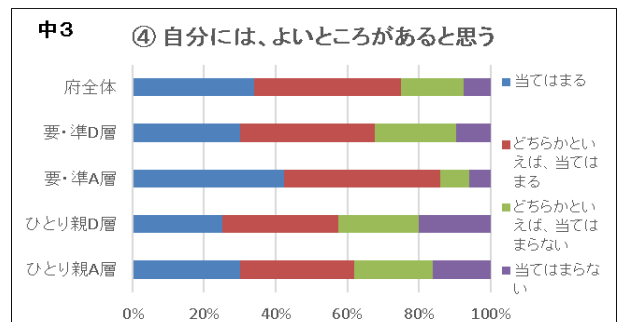
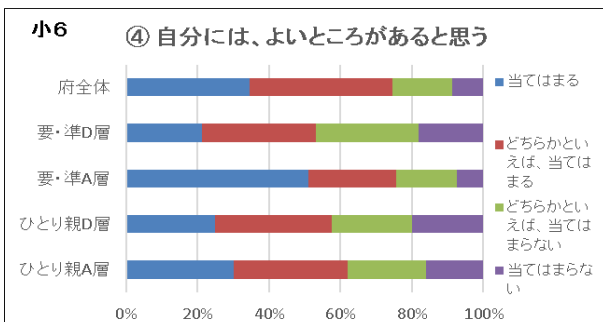
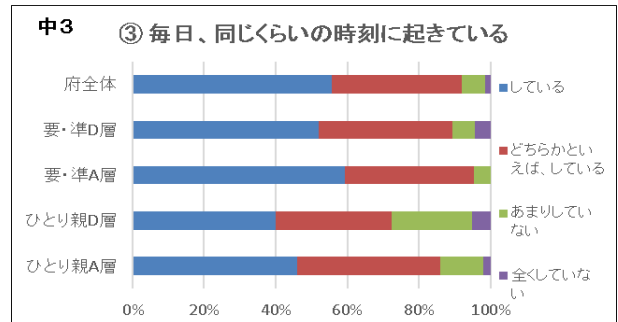
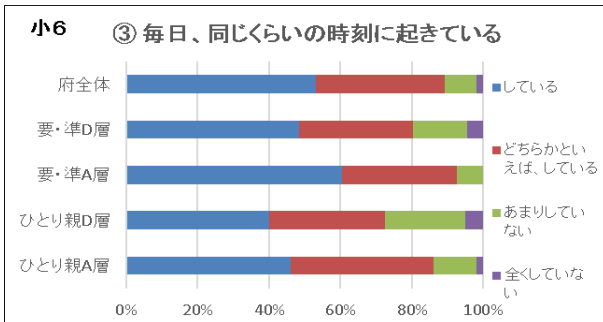
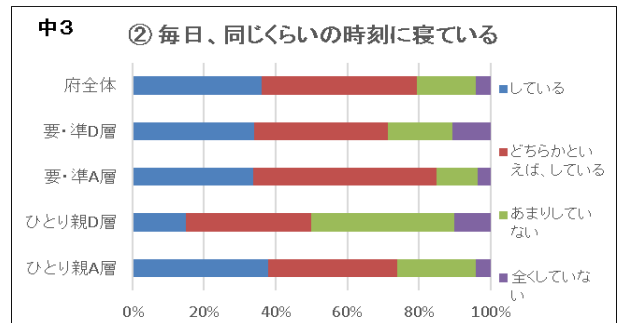
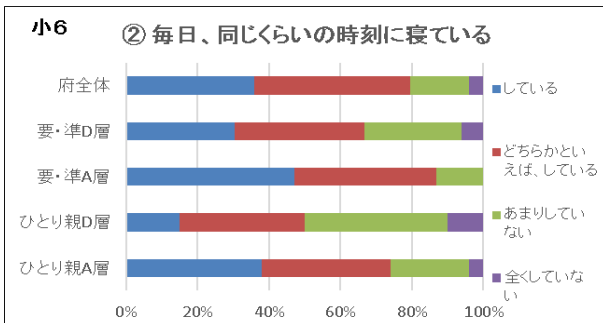
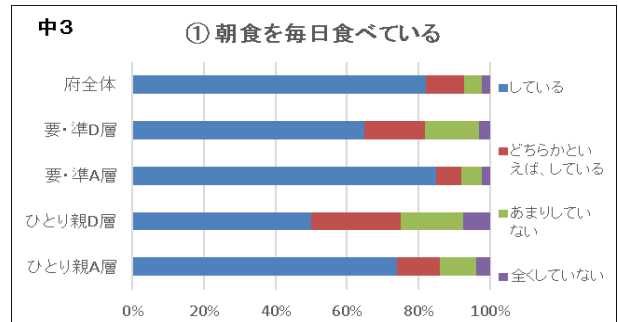
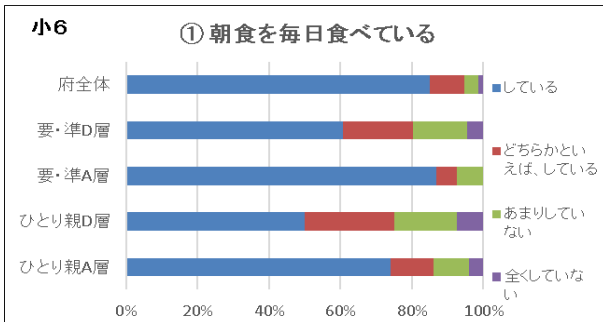
一方で、中3の『自分には、よいところがあると思う。』、小6・中3の『将来の夢や目標を持っている。』『難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。』については、「要保護」が「府全体」を上回っており、「準要保護」「ひとり親」よりも高い。

(2) 学力A層とD層の回答状況の比較（令和3年度 小6・中3）

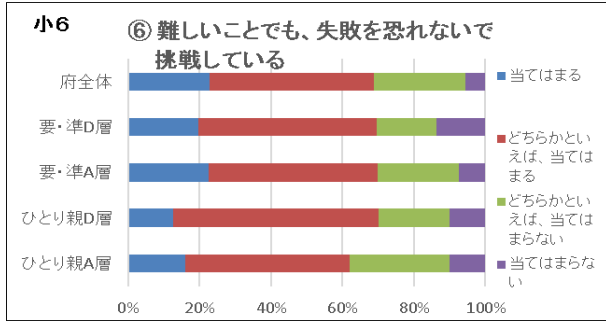
※学力調査の上位25%をA層、下位25%をD層とする

小学校6年

中学校3年



小学校 6年



中学校 3年

